



おかげまいりとおかげ踊り

江戸時代には60年を周期とするおかげ年というものがありました。おかげ年とは伊勢神宮の遷宮のあった翌年の事をさし、この年は特におかげ(恩恵)を授かれるとされ参拝者が多く訪れていました。

中でも文政13(1830)年、3~5月の文政のおかげまいりは、年間の参拝者が500万人にも達しました。3月の下旬から尼崎城下を通る中国街道でも、阿波国(徳島県)の人が通り始め、尼崎の住民もそれに続くよう、子どもから大人まで参宮をはじめました。中国街道は毎日5~6000の人が参宮のため列をなしました。当時、親や主人に無断でお伊勢まいりをして、証拠のお守り等を見せればお咎めがありませんでした。ただ、この狂乱に対し尼崎藩は村々に触書を出し、信心のためとはいえ許可を得ず勝手に出かけるのは良くないと注意を促したほどでした。4月になるとおかげまいりは下火となりましたが、同年、5・6月になると河内の村で「おかげ踊り」が流行し、その翌年6~8月に尼崎・西宮でもおかげ踊りが広まりました。村人は麦や豆の取り入れ時期にも農作業を行わず、踊り続けました。

文政のおかげ年の数年前、庶民はコレラ・災害・凶作などに見舞われ苦しい時代が続きました。一連の出来事は、封建権力に対する合法的な抵抗だったようです。おかげ踊りは禁止となりますが、その後各地の民衆の反抗は大塩平八郎の乱など百姓一揆に続き、幕藩体制は終息に向かうこととなります。

(参考:『尼崎市史 第2巻』岡本静心/編 尼崎市役所)

◆ お伊勢まいり

伊勢神宮は元々天皇陛下が五穀豊穡を始め、日本の安泰を祈るための場所でした。しかし、時代とともに武家の勢力が拡大すると、歴代将軍が参宮し徐々に門戸が開かれるようになりました。

江戸時代には御師という元伊勢神宮の神官が全国をまわり、伊勢神宮の神徳を広めました。また伊勢神宮参拝のため村々に組織的に貯蓄し、くじで選ばれた村人が代表で伊勢参拝できる伊勢講という制度を確立しました。有力な御師は参拝者に屋敷を宿として提供し、食事や観光などの世話をしました。江戸時代、庶民が一生に一度叶えたいと願っていたのが、伊勢神宮への参拝でした。十返舎一九の代表作「東海道中膝栗毛」も主人公の弥次・喜多コンビがお伊勢まいりに出発するお話です。東海道の先々で、珍妙な騒動を繰り広げるストーリーとなっています。この小説は東海道の名所を紹介するガイドブック的な役割も果たしベストセラーとなりました。

(参考:『るぶお伊勢まいり 最新版』ジェイティービーパブリッシング)

● 「お伊勢まいり」についてならこんな本●

- 『東海道中膝栗毛』 来栖良夫/著 童心社 221522330
- 『伊勢神宮と日本の神々』 朝日新聞社出版局 211165897
- 『お伊勢まいり』 矢野憲一/著(他)著 新潮社 211165842

＜図書館の休館日＞ 印の日はお休みです

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
⑥	7	8	9	10	11	12
⑬	14	15	16	17	18	19
⑳	㉑	㉒	23	24	25	26
㉗	28	29	30	31		

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
③	4	5	6	7	8	9
⑩	11	12	13	14	15	16
⑰	18	19	20	21	22	23
㉔	25	26	27	28	㉙	30



3月: 弥生(やよい)

食べ物: カブ、キャベツ、シイタケ、タマネギ、アマナツ、シラス、カズノコ
 植物: ウメ、パンジー、スイセン、チューリップ、オオイヌフグリ
 季語: 雛あられ、草餅、卒業、入学、燕、花簪、残雪

開館時間 午前9時~午後8時 (日曜・休日(○)は、午後5時15分まで)

最終木曜日3月31日(木)は開館します

電子図書館も学べる！！大人の図書館ツアー

【日時】3月21日(月・祝) 13:30~15:00

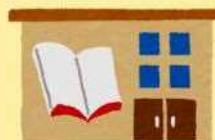
【場所】北図書館 3階集会室

【対象】中学生以上

【定員】先着10名

【申込】3月5日(土)~

1階カウンター、電話にて受付



昨年からはじめた「あまがさき電子図書館」の活用講座と、普段は入ることのできない書庫など館内を回るツアーを行います。

チャリティ・リサイクルブックフェア ご報告

11月6日(土)に開催しましたチャリティ・リサイクルブックフェアでは、多数のご来場ありがとうございました。

また同時にチャリティとして、尼崎琴の浦ライオンズクラブ様が集められた募金の収益から大活字本を寄贈していただきます。ご協力ありがとうございました。

収益の総計:19,747円



<3月展示のご案内>

一般大展示 読んで体験！お仕事本

2階展示 思わず見惚れる表紙たち

- ・ 急遽イベントを中止、または延期する場合があります。
- ・ ご来館の際は感染症対策へのご協力をお願い致します。

大人のための朗読会

【日時】 3月16日(水) 午後2時から1時間ほど
【場所】 3階 集会室
【内容】 『驟り雨(はしりあめ)』 藤沢 周平/著

朗読はボランティア「ま・どんな」のみなさんです。

※ 状況により、内容の変更・中止になる可能性があります。

人を読む 阿川佐和子

1953年～東京都生まれ。作家阿川弘之氏の娘。慶應義塾大学文学部西洋史学科卒。エッセイスト、作家。『ウメ子』で坪田譲治文学賞、『婚約のあとで』で島清恋愛文学賞を受賞。ほかの著書に『聞く力』『うからはらから』など。

『恋する音楽小説』

阿川 佐和子[著]/講談社

NHKFMラジオ番組「クラシックものがたり」「恋する音楽小説」で紹介された、ベルリオーズ作曲「幻想交響曲」、歌劇「椿姫」などの名曲にまつわる様々な人間模様や史実を織り交ぜて描いた物語。番組のなかで放送された、阿川佐和子執筆の放送台本の中から19篇を選んで加筆し、単行本化。

『ああ言えばこう食う』

阿川 佐和子[著]・檀 ふみ[著]
/集英社

“「口から生まれた双子座」のダンファミと「天然の饒舌」アガワサワコ」同じく作家を父に持つ二人が繰り広げる辛辣でセキララでユーモアあふれるやりとりの数々。「食」をテーマにつづる女同士の友情に満ちた往復エッセイ。第十五回講談社エッセイ賞受賞作。五木寛之氏との特別鼎談も収録。

『アガワ流生きるピント』

阿川 佐和子[著]/文藝春秋

“人の悩みは尽きないものである”仕事が忙しすぎてヘトヘト、部下を叱れない、フラれるのが怖い、モテて困る、高校生になった娘が話してくれない……。仕事・恋愛・家族・生活にまつわる誰もが抱く悩みに、人生経験を積んだ著者と担当編集者の対話形式でアガワ流アドバイスをおくる。

『あさごはんたべたのだれ』

ビビアン・フレンチ[著]アリソン・パー
トレット[画]・阿川 佐和子[訳]
/小学館

わんわんボブが目を覚ますと、朝ごはんのボウルがからっぽ。友達の鳥・ミドーリは、たしかにボウルにはソースつきビスケットが入っていたと言い、ボブは大好きな朝ごはんを食べた犯人を探しますが……。ユーモラスな犬のキャラクターが楽しい絵本。【0～5歳】

著書の『聞く力』がベストセラーとなり、父・阿川弘之との共著『蛙の子は蛙の子』や、94歳で大往生した父との62年間を振りかえる『強父論』など作家・エッセイストとしての執筆活動も盛んで著書多数。トーク番組ほか映画やドラマでタレントとしても活躍するなどマルチな才能を発揮している。

児 童 室 3 月



おはなし会



土曜日

(第1・第3土曜日) 場所：3階集会室

おひざのうえ (0~2歳くらい) 午後2:00~
 小さい人 (3~5歳くらい) 午後2:15~
 大きい人 (小学校低学年くらい) 午後2:40~

3/5 (土)

- おひざのうえ
「ころんちゃん」
「おいし~い」
- 小さい人
「もじもじこぶくん」
「おかあさんのたんじょう日」
- 大きい人
「おさるとぼうしうり」
「あめだま」

3/19 (土)

- おひざのうえ
「そおっとそおっとね」
「おおきいくまさん ちいさいくまさん」
- 小さい人
「はるかぜのホネホネさん」
「かにかに、こそこそ」
- 大きい人
「おおきくなるっていうことは」
「ふしぎなたいこ」



水曜日

あかちゃんひろば

(第1・第3水曜日)

場所：1階絵本コーナー

3/2(水)、3/16(水)

午前11:00~11:20

0歳~2歳くらいのお子さんと
保護者向け

赤ちゃん絵本、わらべうた、手遊びなど



日曜日

(第2・第4日曜日)

場所：1階ロビー

2歳くらいから

3/13(日)、3/27(日)

午前11:00~11:20

季節の絵本や紙芝居など

3

今月の展示

『はるのえほん』



日	月	火	水	木	金	土
		1	2 	3	4	5 
6	7	8	9	10	11	12 
13 	14	15	16 	17	18	19 
20	21	22	23	24	25	26 
27 	28	29	30	31		